

What's New From ASCIKU

関西大学科学技術振興会 No.29 March 2011

平成22年度 第7回研究会～第15回先端科学技術シンポジウムに参加

1月13日（木）～14日（金）

科学技術振興会では、第15回先端科学技術シンポジウムを後援いたしました。また、同シンポジウムにおける振興会セッションとして第7回研究会を次の内容で開催し、会員を始め同シンポジウム参加の多くの方々にパネル展示をご覧いただきました。

先端機構における一年間の研究成果の集大成としての同シンポジウムは回を重ねるごとに盛況となり、今回も企業や研究機関等から延べ1,000人以上の方にご来場いただきました。

- 1 日時 平成23年1月13日（木）、14日（金）
- 2 場所 関西大学100周年記念会館 第6会議室
- 3 内容 パネル展示【H22年度研究会活動、「第5回関西大学理工学国際シンポジウム」（8月、高雄(台湾)・正修科技大学で開催）に対する支援・参加、表彰事業など】



平成22年度 第8回研究会を開催 2月18日（金）

平成22年度第8回研究会として、会員企業でもある株式会社日本スペリア社様のご協力を賜り、企業見学会を開催いたしました。見学会は、同社代表取締役社長西村哲郎氏による講演および施設見学を行い、参加された会員の方々は熱心に耳を傾けておられました。



1 講演「どこで作って、どこで売る(地産地消の取り組み)」

株式会社日本スペリア社 代表取締役 西村 哲郎 氏

日本スペリア社は、フラックスの販売を手始めに、金属接合材（はんだ付・ろう付材料）の製造・販売、国内はもとよりアジア・ヨーロッパに製造・販売の拠点を設けグローバルに展開されています。

独自開発の鉛フリーはんだ「SN100C」について、環境配慮だけでなく、その特性への評価も高いこと、世界で広く特許を取得し採用されていること、海外の大学との共同研究を行っていることなどを紹介されました。

将来の多様化・ファイン化・環境保全のニーズに応えるため、地産地消に取り組み、消費地での生産供給に変えることで顧客満足度の向上と同時に経済的、政治的なリスクを分散し、原材料調達、製造、販売まで全てを域内で完結させる技術開発型企業の経営について多くの事例を基に熱い志を語られました。

さらに、超極細フラックス入りはんだ、ガイド線入りフラックス入りはんだ、および第2世代完全ハロゲンフリーソルダペーストなどの研究開発について事例を基に紹介されました。

2 施設見学（金属接合用材料の製造、加工および研究開発関連等の見学）

講演に引き続いて、日本スペリア社豊中センター豊中工場の溶解工場、加工工場、配送センターおよびR&Dセンターを見学しました。3つのグループに分かれ、はんだの製造工程を同社社員の方々の丁寧なご案内で見学しました。

R&Dセンターの最新の各種試験装置は、常に製品の性能と品質を市場ニーズに対応して追及しているものづくり企業の技術力の強みを理解させるもので、“もの”を売っているのではなく、“技術”を売っている企業であることが実感できる工場見学になりました。



お知らせ

社会安全学部長 河田 恵昭 教授 著

「津波災害—減災社会を築く」を岩波書店から出版

津波は発生した瞬間から消滅するまで、広大な空間に対して長時間にわたって危険をもたらすという、ほかの災害にはない特徴をもっています。災害研究の第一人者である河田恵昭教授が、被害をいかに最小限におさえるかという減災の視点で津波減災社会の構築へ向けた具体的施策を示されています。



(岩波新書 1286)

受賞

紀和マシナリー、アイエス技術研究所が 第36回発明大賞「発明奨励賞」を受賞

発明大賞は、日本発明振興協会と日刊工業新聞社共催で、発明考案・研究を通して科学技術の振興、産業の発展に寄与した企業・人に贈られます。

科学技術振興会会員企業である2社はシステム理工学部 北嶋弘一教授と共同研究している「DLC膜を滑り面に使用する工作機械用ハイブリッドガイド」の開発で発明奨励賞を受賞しました。

今回は53件の応募があり、24件が選ばれました。

発明奨励賞



明、滑り面（紀和マシナリー）に
案内面に重厚な張布、0595・
DLC 64・4758、アイエ
ス技術研究所（兵庫県尼
崎市、06・7492・
08002）

▽DLC膜を滑り面に（ダイヤモンド・ライク）
使用する工作機械用ハイブリッドガイド（紀和マシナリー）（社長・西井幸司氏ほか1人）
時の摩擦速度特性を改善した。
従来は油潤滑を使って
おり、テーブルが往復運
動するため折り返し時の
摩擦速度特性が問題だっ
た。
内面に関する発明。

(2011年3月8日 日刊工業新聞)

受賞

第12回キャンパスベンチャークラブ(CVG)大阪(愛称:キャベツ・プラン)で、総合情報学部(田中成典教授)の学生および大学院総合情報学部研究科の院生が佳作2件を受賞

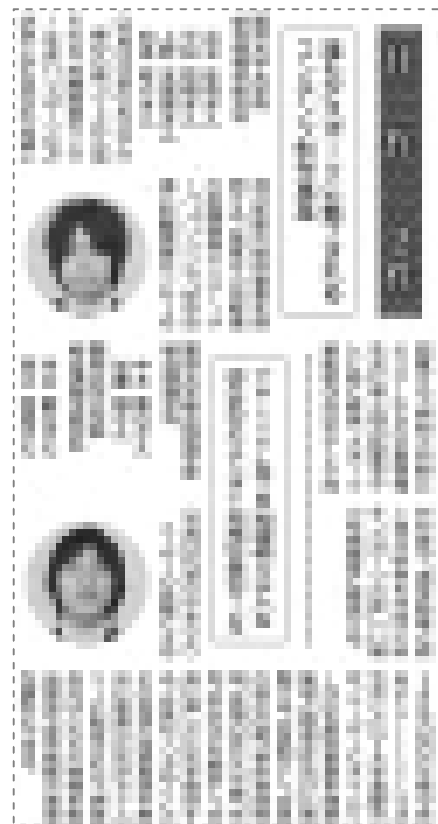
受賞に輝いた2件のプランは、「誰もがスポーツに魅了されるコンテンツ制作事業」(*1) および「TwitterとGIS(地理情報システム)を組み合わせたリアルタイム地域広告宣伝サービス」(*2)です。

CVG大阪は、関西の学生による新事業提案コンテストで、キャンパスベンチャーグランプリ大阪実行委員会が主催し、摂津水都信用金庫と日刊工業新聞社が共催するものです。応募プラン総234件、応募のあった大学は20校、専門学校は2校でした。

*1: 大学院総合情報学研究科 足立佳哉、平松祐樹、上野友里恵、和泉紘介

*2: 総合情報学部 中本聖也、加藤 諒

大学院総合情報学研究科 寺口敏生、西江将男



(2011年1月19日 日刊工業新聞)

振興会のホームページ

<http://www.kansai-u.ac.jp/ordist/sinkokai/index.html>

関西大学 HP からサイト内検索で「振興会」を入力して下さい

ASCIKU 関西大学科学技術振興会

Associative Society for the Collaboration between Industries and Kansai University